

校長室だより

No. 24

平成 27 年 10 月 23 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず
加藤嘉一

全国に知られている野外展示 造形おかざきっ子展 ー芸術の祭典ー



52年の歴史をもつおかざきっ子展が、明日から開かれます。これだけ長く続いている野外展は全国でもまれです。3世代を通して、この野外展作品を作った経験のある家庭があるのではないのでしょうか。

この野外展は、昨年度まで使っていた図工の教科書（開隆堂5・6上）に掲載されており、全国の美術教育を専門にしている人たちには、かなり知られています。こうした市内の子供の作品を集結させ、芸術の森を作ることに憧れを持っている方もいらっしゃいます。私たちも、作品を搬入すると、他校の作品を見て、素材や作品作りのアイデアを勉強します。県外からもそうした勉強をしに来られる方がいます。

当日は、オープニングセレモニーや体験コーナーがあります。ぜひ子供の作品で作る芸術の祭典に足をお運びください。



【上 昨年度図工5・6年教科書・開隆堂
下 本年度5年作品「船で行こう!」】

日時：10月24日(土)・25日(日)9時～17時
場所：おかざき世界子ども美術博物館広場

環境を整える ー校務主任・校務員さんの努力ー

今、本校では、「北舎2F物入れ」を大改造しています。ここには、これまで学芸会の大道具等を入れていました。ちょうど今学芸会で大道具を運び出している最中ですので、この時期を利用してこの部屋を大改造することにしました。その発案は、校務主任の三浦先生です。今回、三浦先生は、各学級が授業で使うと効率的だったり、子供に示しやすく伝わりやすくしたりするもの（教具）

を使いやすい位置に置き、利用しやすい環境づくりをしないと、大改造案を申し出てくれました。

学校には、持ち運び用の方眼黒板や習字用の水書板（筆に水をつけて書くと、黒い字が浮き出てくるもの）、提示用の掛図（大きい地図）、地球儀など、普段教室に置けない大きな教具を学校の様々な場所にしまっています。今こうしたものをしまっている場所が、南舎3Fの小部屋であり、大きな物を運ぶには、子供も先生も四苦八苦です。これまで、新しい教具が入るたびにベストの場所を考えるのですが、学校も物が多い割には部屋の数が少なく、部屋の使い方も細かなきまりがあって移動を余儀なくさせることがあり、苦心しています。



【北舎2F「物入れ」部屋の作業の様子】

「校務主任」という先生の仕事も、あまり知られていないのではないのでしょうか。校務主任の先生は、たくさんの仕事をしていますが、そのひとつとして、学校環境の整備があります。三浦先生は、とても器用で熱心で、学校の中の扉や機械などの壊れたものを一生懸命自分で研究して直してしまいます。多くの方が御存知の通り、もともと専門ではなかったFBCのための花の世話も研究し、誰よりも詳しくなっています。

また、今回三浦先生の発案を受け、校務員の水谷さんも協力してくれ、大変助かりました。なんといっても創意工夫がすごい。今回は、古くなり使い勝手の悪くなった組み立てパネルを改造し整理棚を作り上げてしまいました。これで、教室近くに方眼黒板や水書板、掛図なども置き、移動用のパネルの収納もでき、教室でよく使う物が一番近い場所に置けます。地味で目に見えない仕事ですが、授業の合間に、教育環境整備を進める職員がいます。

少人数指導（算数）の充実を図ります

本校では、6・4年生の算数で少人数指導授業を行っています。今回、6年生について、全国学力学習状況調査等の結果から、より子供の実態に即した授業を展開するために、これまで行っていたTT（チーム・ティーチング）型から、少人数分割（1つの学級を2つに分ける）型編成の授業に変え、効果をあげたいと考えます。御理解ください。